J. Jpn. Soc. Soil Phys.
土壌の物理性
No. 158, p. 61 (2024)

JpGU報告
資　料
Miscellaneous

日本地球惑星科学連合 (JpGU) 2024 年大会 A-HW22 Material transportation and cycling at the land-sea interface: from headwaters to the ocean 開催報告

小林政広 [1]

Report of a scientific session “A-HW22 Material transportation and cycling at the land-sea interface: from headwaters to the ocean” on JpGU 2024

Masahiro KOBAYASHI[1]

1. はじめに

日本地球惑星科学連合（JpGU）2024 年大会は，前年と同様に幕張メッセの現地会場とオンラインでのハイブリッド開催となった．本稿では本大会で企画されたセッション A-HW22 「Material transportation and cycling at the land-sea interface: from headwaters to the ocean（流域圏生態系における物質輸送と循環：源流から沿岸海域まで）」の開催概要について報告する．本セッションは，源流域から沿岸海における水 · 物質輸送および栄養塩循環のプロセスとメカニズムの理解を軸に据えて幅広い議論を行うことを目指し，前身セッションから数えると 20 年を超えて継続している．今回も前年と同様に言語は英語，AGU とのユニオンセッションとして開催された．

コンビーナ：前田守弘（岡山大）（代表），入野智久（北海道大），宗村広昭（岡山大），Adina Paytan（カリフォルニア大）
準コンビーナ：小野寺真一（広島大），安元 純（琉球大），小林政広（森林研究 · 整備機構），奥田 昇（神戸大），細野高啓（熊本大），伴 修平（滋賀県立大），齋藤光代（広島大）（登録可能な 4 名とともに企画 · 運営に参画している）
共催学会：日本海洋学会，日本水文科学会，水文 · 水資源学会，日本堆積学会，日本第四紀学会，日本地下水学会，土壌物理学会，陸水物理学会

[1]Forestry and Forest Products Research Institute, Forest Research and Management Organization, 1 Matsunosato,Tsukuba, Ibaraki 305-8687, Japan. Corresponding author: 小林政広, 森林研究 · 整備機構森林総合研究所

2. プログラムと講演内容

本大会では口頭 21，ポスター 20 の合計 41 タイトルの発表があった．源流域，河川，地下水，湖沼，沿岸海域を研究フィールドとし，物質の流入と流出，移動過程における形態変化，それをコントロールする微生物の作用までを対象とする，きわめて幅広い研究発表があった．タイトルについては以下の大会 WEB サイトを参照されたい．

https://www.jpgu.org/meeting_j2024/sessionlist_jp/detail/A-HW22.html

午前，午後とも口頭発表が 2 コマずつ，夕方はポスターの丸一日のスケジュールで，農地でのマイクロプラスチックの分布から，サンゴ礁でのリン利用の研究まで触れることができた．コロナ禍を経て現地参加者が戻ってきた幕張メッセの会場は今回さらににぎやかになった．

国内学会の大会は現地のみに戻す傾向があるようだが，JpGU 大会は特に海外からの参加者を確保するため，今後も現地とオンラインのハイブリッド開催が続くように思われる．どちらの形で参加しても参加費に見合った充実感が得られるような工夫をセッションからも提案してくことが大切であると感じた．

3. おわりに

本セッションは 2025 年大会でも開催され，代表コンビーナを神戸大学の奥田 昇氏が務める予定である．源流域から沿岸域までの水と物質の輸送 · 循環における物理，化学，生物プロセスを一体的に理解することを目指すセッションへの土壌物理学会会員諸氏の参加を歓迎する．